



秋の飼養管理について

今年は例年になく猛暑の夏となりました。暑熱ストレスにより落ちた免疫力が回復せず秋を迎えている可能性があります。免疫力低下はサルモネラ症等の伝染病の発症リスクを高めます。丁寧な管理と観察で秋を乗り切りましょう。

□飼養管理と衛生対策

- 換気扇の稼働や窓の開閉などにより、牛舎内の風通しを良くする。
- 農場出入口へは石灰帯、牛舎出入口では踏込み消毒槽を設置するなど、農場内の衛生管理を徹底する。
- 飼槽や給水器に飼料残渣があると細菌が増殖するので清掃を行う。
- ほ育牛のほ乳瓶、バケツ等は、使用后、しっかり洗浄消毒を行う。
- 良質粗飼料の給与、こまめな掃き寄せなどにより、乾物摂取量の低下を防ぐ。

□放牧管理

- 秋は放牧地の草量が少なくなるため、放牧草が不足していないか注意する。腹の張りなどを観察し、放牧草が不足している場合は、併給粗飼料の給与を行うなど対応する。
- 放牧地やパドックの草架は、その周りが泥濘化しない様な場所に設置する。
- 放牧草が少なくなり放牧地が軟弱になると、泥濘化しやすくなる。泥濘化で、牛体の汚れがひどくなる前に終牧する。
- 終牧後は、積雪によるワイヤーの切断を防ぐため、牧柵をしっかりと地面付近まで下ろす。

宗谷農業改良普及センターホームページもご覧ください！

「低水分サイレージのサイロ管理と留意点」を掲載しています。令和3年産サイレージ使用の参考にしてください！ HPはQRコードから閲覧できます→



農作業安全に努めましょう！

夜間、道路での追突防止のため、低速車マーク、反射テープ等を装着しましょう。